

ひっば

Vol. 474 2026. 1



心臓血管ウエットラボ 開催

表紙の写真



年頭所感 チームAX 発足
高校生進路発見セミナーin近森病院 開催



年頭所感

患者さん・地域・職員とともに描く海図

社会医療法人 近森会 理事長 入江 博之

はじめに

2026年の新春を迎える、社会医療法人近森会を支えてくださるすべてのみなさま、そして日々現場で力を尽くしてくれる職員に、心から感謝を申し上げます。

私たちを取り巻く医療環境は、かつてない変化の渦中にあります。高知県の高齢化率は3割に迫り、全国に先駆けて人口減少・超高齢社会の現実と向き合っています。医療・介護分野の有効求人倍率は全国平均を大きく上回り、働き手の確保は地域医療の生命線となっています。加えて診療材料をはじめ諸物価の高騰が続き、限られた資源で医療の質を落とさず、むしろ高める工夫が求められています。こうした難局にこそ、私たちの真価が問われます。

近森会の挑戦 —— 現場起点の改革

近森会はこの数年、現場の声を起点に着実な改革を積み重ねてきました。

まず、「情報連携の革新」です。PHSからスマートフォンへの段階的



移行を進め、音声入力やチャット、コマンドセンターを用いたベッドサイド管理を通じて、情報連携のスピードと質を高める準備を整えてきました。

次に、「**地域連携の深化**」です。地域医療連携推進法人「高知メディカルアライアンス」を核に、急性期から回復期、在宅まで切れ目がない“地域のチーム医療”を拡げています。病院の枠を超えた連携こそ、これから地域医療を支える土台となります。

さらに、「**療養環境の充実**」にも力を注いでいます。患者さんのご希望と尊厳を守るため、総合心療センター・北館の改修により個室と4人床を増設します。2026年6月には薬剤タワーが完成し、大災害時にも医薬品を安定供給できる体制を整えます。また、本館3階と北館3階を「空中通路」で接続し、患者さんと職員の動線を最適化します。

そして、本館1階正面玄関フロアには、入退院・相談・会計・連携・コマンド機能を統合する『ワンストップセンター(仮称)』の設置を計画しています。待合と導線の改善、相談ブースの拡充、発熱外来のER横への移設により、患者さんとご家族の

利便性を大きく向上させます。

加えて、「**AI時代への対応**」として「チームAX(AI Transformation)」を発足させました。生成AIを医療記録支援や定型文作成、業務標準化に活用するトライアルを、安全性とセキュリティを最優先に進めています。技術は手段であり、目的は患者さんへのケアの質向上と職員の負担軽減です。

2026年の重点方針

外部環境は一層厳しさを増します。2024年度診療報酬改定では賃上げや標準的感染対策、医療DXの評価が進みましたが、2026年度の改定では、それらを現場の待遇改善と質向上に結び付けられるかが問われます。

私たちは今年、次の3つを重点に据えます。

第一に、**患者さん・職員・情報の三位一体最適化**です。情報が円滑に流れることで、患者さんの安全と満足が高まり、職員の負担も軽減されます。

第二に、**“働きやすさ”と“働きがい”的向上**です。人材確保と定着は、単に待遇だけでなく、成長を実感できる環境づくりが鍵です。

第三に、**地域のニーズに合った医療貢献の深化**です。高知県の地域医療を守る最後の砦として、私たちは責任を果たし続けます。

近森外科開設から80周年 ——頼れる、そして進化する近森会へ

人口減少、人手不足、物価高という三重苦の時代です。しかし、私たちには現場で培った知恵と、地域とともに歩んできた信頼があります。困難は、私たちをより強く、より柔軟にします。

今年80周年を迎える近森会はこれからも、誠実で頼れる医療、そして進化し続ける医療を目指します。患者さん、地域のみなさん、職員のみなさん——すべての“つながりの質”を高めることで、2026年をともに切り拓いてまいりましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年度 近森会グループ MVP 受賞者発表!

今年度最も優れた活躍をされたスタッフやグループが近森会グループMVPとして表彰されました。受賞者には、感謝の言葉と豪華副賞が贈られました。皆さん、受賞おめでとうございました。



MVP受賞者には
記念のバッジが贈
されました。



近森リハビリ
テーション病院
5階東病棟

南 和芳

個人
受賞

後進への丁寧な指導育成に加え、介護専門学校との連携強化やオープンホスピタルの企画運営等、職員の就職につながる活動に尽力した。

外来センター
警備

前田 政広 氏
(横田商事)

個人
受賞

現場スタッフの負担軽減を常に考えた丁寧な患者対応と細やかなサポートで、職員との信頼関係を築き施設運営に大きく貢献した。



近森病院 総合心療センター ECTチーム

医師 看護部

森 学美 溝依 百世 伊藤 彩香 上田 秀彰
山下 高明 岡本 園香 下元 伸之 川越 達矢
安田 親司 山崎 智世

電気痙攣療法(ECT)において、年間125件超の治療実績を達成し、総合心療センターの医療水準向上に寄与した。



チーム
受賞

近森会グループ 忘年会

2025年12月10日
ザ クラウンパレス新阪急高知

各院のスタッフ・来賓を含め300名を超える関係者が集った各テーブルでは、美味しい料理を和やかに囲み、職種を問わない交流が生まれ、日頃の連携を一層深める貴重な機会となりました。



病理診断科
中嶋 紗子



年間4,000件超の膨大な標本を高い精度で迅速に診断し、全診療科の治療方針を支え、病院全体の診療レベル向上に大きく貢献した。



近森病院
臨床工学部
永尾 彰大



CAG介助において専門知識で医師をサポートし、緊急・重症症例時も明るい雰囲気で現場の士気を高め、チーム医療推進に貢献した。



特定技能生・ 技能実習生 担当者

特定技能生・技能実習生の受け入れにあたり、温かい指導と献身的なサポートで安心して働ける環境を構築した。



「瑞宝中綴章」を受章した森田理事から挨拶。



第10回 ~地域医療講演会実習編~ 心臓血管ウェットラボ

2025年 11/9(日)

Mobile Training Lab 四国初上陸、156名参加

近森病院 心臓血管外科 部長 手嶋 英樹
てしま ひでき



第10回心臓血管ウェットラボは臨床工学部の川田CEをリーダーに準備され、11月9日に開催されました。あいにくの秋雨でしたが、総勢156名が参加し、大盛況でした。

初めて参加された方は緊張していましたが、終わった時には笑顔でしたし、新しく始まった「屋外体験型移動ブース(Mobile Training Lab)」という目玉もあって、近森らしい会になりました。

インストラクターの先生方も熱心で、当日、多忙で疲労困憊になった方もおられましたが、参加者・スタッフ含め、学びや交流のある充実した1日でした。

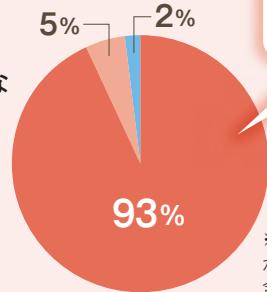
設営や片付けも非常にスムーズで、参加していただいた皆様のご協力に感謝しています。「参加してよかったです」、「勉強になった」などのお声をいただき、今後の診療の一助になればと思います。アンケート結果も「良かった」が大多数で、貴重な体験となりました。またやりたいなと考えていますので、是非次も多数の方のご参加をお待ちしています。



■ アンケート

Q. ウエットラボは有意義な実習でしたか?

- そうである
- どちらかと言うとそうである
- どちらでもない
- どちらかと言うとそうではない
- そうではない



満足度98%!*

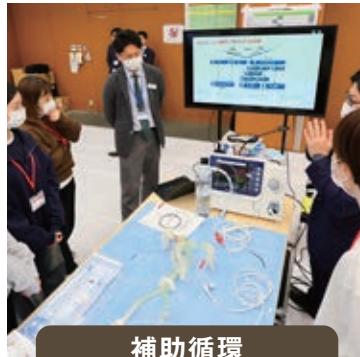
* そう・どちらかと言うとそう含め。

■ 参加者総数 156名

- ・一般参加者 60名 (院内:46名、院外:14名)
- ・インストラクター 18名 (院内:14名、院外:4名)
- ・スタッフ 78名 (院内:28名、協賛企業:50名)



PCI



補助循環
(IMPELLA・エクモ・IABP)

講演会



講師、右から5人目。

2025年度
近森会グループ看護部管理者研修
『人生100年時代の学びなおし
～組織・看護師個人の
生き残りのために～』

国際医療福祉大学大学院 副大学院長
元日本看護協会会长 福井 トシ子 先生
ふくい としこ

〈2025年11月15日／
近森リハビリテーション病院会議室〉

＼みっちり全11科目!!／



弁



CABG



豚心臓解剖



TAVI



Mobile Training Lab



心エコー



カテーテルアブレーション



SHD
(PASCAL・Watchman)



ステントグラフト

講演会

第180回 近森病院 地域医療講演会

『緊急ACP

～救急・集中治療の現場での
意思決定支援～』

帝京大学医学部 准教授

Acute Care Surgery 部門長

伊藤 香先生
いとう かおり



〈2025年12月3日／管理棟3階会議室〉 ※講師はWebによる登壇



(下左)左より、司会の救急科 矢崎知子科長、座長の川井和哉院長。

(下右)質疑応答も活発に行われました。

チームAX

活動スタートします!

2025年12月～

チームAX リーダー 兼 リハビリテーション部 統括部長
高芝 潤 たかしば じゅん

AIによる業務変革

2025年12月、社会医療法人近森会ではAI推進として、新たにチームAXを設置しました。チームAXは、AI技術を活用して業務の効率化と職員の負担軽減を進めるために創設された法人横断チームです。名称の「AX」はAI Transformation(AIによる業務変革)を意味し、AIを医療現場の業務改善に着実に活かすこと目的としています。私たちは、AIが特別な存在ではなく、日々の業務の中に自然に組み込まれ、現場の時間を生み出す支援ツールとして機能する環境づくりを目指します。

第1四半期の重点施策2つ

メンバーは診療部門・事務部門から選出され、通常業務と兼務しながら活動します。まずは業務の実情を知り、AIを安全かつ効果的に利用できる基盤を整えることが重要です。そのため、第1四半期(2025年12月～2026年2月)では、2つの重点施策を実施します。

1つ目は、全職員を対象としたICTリテラシー調査と初心者向けAIリテラシー研修です。AIを使いこなすうえで欠かせないセキュリ



▲ 前列右より、筆者、入江理事長、近森病院 臨床工学部 西村主任
後列右より、看護部長室 山下秘書、近森リハビリテーション病院 介護福祉士 中屋主任、健康管理センター 藤野事務員

ティ意識や基本操作を身につけてもらい、誰もが安心してAIを活用できる環境を整えます。

2つ目は、各部署で行われている業務内容や流れを把握するための業務フローハーリングです。デジタルフォームを用いて業務を可視化し、「どの作業ならAIや自動化が効果的か」を明確にするための基礎データを収集します。

医療の質向上と働きやすさへの貢献

チームAXの目標は、AIの導入と活用を推進し、現場の時間を取り戻すこと。職員の皆さまの声を大切にしながら、医療の質向上と働きやすい環境づくりに貢献していきます。

災害拠点病院としての新たな試み

2025年11月21日

▶
近森病院のヘリポートと近森リハビリテーション病院屋上の間を飛行させる形で実施した。

災害用ドローン物資運搬デモンストレーション実施



仕事も、
私事も。
私はらし。



お問い合わせ先／TEL:088-822-5231(代表) メール:kango@chikamori.com

www.chikamori.com/group/recruit/nurse/ 近森 看護師 検索

第4回

2026 1/31 SAT . 2/1 SUN

2026
年度



すまいる♥ナース通信 #認定看護師

共に考え、共に成長する

近森病院 総合心療センター 病棟長／精神科認定看護師
中山 俊典 やまなか としのり

精神科認定看護師として、総合心療センターの病棟で勤務しています。総合心療センターの理念、「患者さんがその人らしさを失うことなく、社会の中でこころ豊かに前向きに生きていくけるよう支援する」をもとに、「その人らしく生きていくうえで、患者さんと“共に考える”ことを大切に仕事に取り組んでいます。

外部活動では地域での出前講座のほか、2011年の東日本大震災と2016年の熊本地震の際は、災害派遣精神医療チームとして避難所で心のケアの活動をさせていただきました。

現在「病院の垣根を越えて“共に考えよう”」と題して、県下の精神看護に携わる看護師さんたちを対象に2~3ヶ月に1度、勉強会を開催し集いあっています。

病院内にとどまらず、幅広く活躍できる看護師を目指して鍛錬していきたいと思っています。勉強会にご興味がありましたら、お声掛けください。



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター モリンちゃん

11月に開催した勉強会の様子。



職員募集中！



3,000とおりの
誇れる仕事

募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 診療放射線技師
- 臨床検査技師
- 事務



詳しくは、近森会
グループHPの
採用ページを
ご覧ください。

CHIKAMORI COLLECTION

近森コレクション

不定期
掲載

グレンドロナック12年

内田 貴裕氏
(アートセンター画業)



アートセンター画業



秋の京都フリー

2025年
11月20・21日



出張

The 3rd AI-Mefty Lectures and Hands-on Cadaver Dissection Skull Base Course

〈2025年10月31日～11月3日／台湾〉

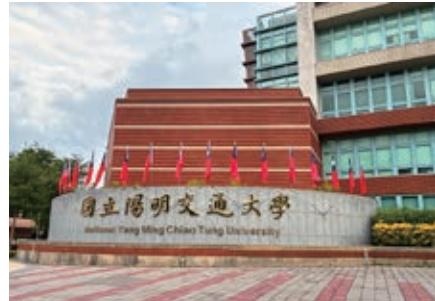
小籠包よりアツい！台湾頭蓋底解剖研修

手術のアプローチを学ぶ解剖研修

2025年10月31日から11月3日、台湾で開催されたCadaver Dissectionに参加してきました。Cadaver Dissectionとは、ご献体を用いた解剖実習のことです。医学部時代に解剖の授業があるので、その際は正常構造を学ぶ目的であり、手術のアプローチ法などは勉強しません。医師になってから様々な手術を学ぶ中でもっと詳しくなりたいと思い、今回の実習に参加しました。

講義・実演、最後にLive surgeryを見学した4日間

場所は台湾北部にある国立陽明交通大学で行われました。敷地がとても広く移動にはタクシーが必要でした。日程は4日間あり、はじめの3日間が講義と実演で、最終日はLive surgeryの見学でした。日本以外の参加者が多く、現地の台湾やフィリピンの先生が多かったです。もちろん講義やコミュニケーションはすべて英語で、慣れるのに時間はかかりました。実習では普段はできないアプローチ法や、普段の行っている手技の一歩先を知ることができ、とても勉強



近森病院 脳神経外科
新野 健 しんの けん

になりました。

中身の濃い医師を目指して

実習後の時間に少しですが台湾観光をしました。本場の小籠包を食べたり、士林夜市で食べ歩きをしたり、台湾マッサージを受けたりしました。臭豆腐は…勇気が足りず、写真だけ撮って終了になりました。



今回の実習参加にあたり、病院から援助をいただきました。ありがとうございました。今後は「小籠包のように中身の濃い医師」を目指して、精一杯頑張ります！



指導医(左から3人目)と一緒に参加した各国の脳外科医。筆者、右から3人目。

論文掲載

V1-3の陰性T波には注目しましょう！

論文名

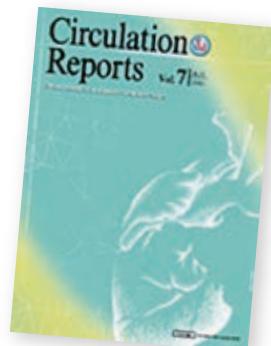
Electrocardiographic Prediction of Acute Pulmonary Embolism at Intermediate-High- and High-Risk
(高リスクな肺塞栓症の心電図による早期予測)

掲載誌

Circulation Reports 2025; 7: 973-979

近森病院 循環器内科

中山 拓紀 なかやま ひろき



約4年前から取り組んできた急性肺血栓塞栓症に関する臨床研究ですが、いくつか学会発表を経て、ようやく論文化まで辿り着きました。

急性肺塞栓症は、急性心筋梗塞や急性大動脈解離と比べて診断が遅れる傾向があります。当院で経験した肺塞栓症の症例の心電図所見を解析し、どのような所見が重症度の高い肺塞栓症の早期診断に役立つかを検討しました。

よく言われる“S1Q3T3”は肺塞栓症を示唆しますが、それよりも“前胸部誘導の陰性T波”的度が高い結果になりました。もちろん心筋梗塞も鑑別ですが、肺塞栓症の存在も気にする必要があります。小規模の研究ではありますがERでの日常診療に役立てば幸いです。

学会発表

2nd International Conference of the Asian Dysphagia Society(ADS 2025)

第2回 アジア嚥下学会国際カンファレンス

〈2025年11月5~8日/タイ・バンコク〉



嚥下とビールとバンコクと。
2度目のアジア嚥下学会に行ってきました。

近森リハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長 青山 圭 あおやま けい

演題

Efficacy of Bridge Dry Swallowing in Stroke Patients with Esophageal Dysphagia
(脳卒中患者における食道期嚥下障害に対する腰上げ空嚥下の有効性の検討)

12か国が加盟する学会での発表

本学会は、アジアの嚥下障害分野を代表する全国規模学会が集まって構成されており、日本、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、トルコの12か国が加盟しています。今回は、その国際色豊かな学会がタイ・バンコクで開催されました。

私は、抗重力姿勢で食道機能を鍛える「腰上げ空嚥下」についてポスター発表を行いました。拙い英語ながら多くの方が興味を示してください、「どんな患者さんに向いている?」「注意点は?」「どこでやるの?」と次々質問をいただき、熱心にディスカッションする機会に恵まれました。



▲同じポスターセッションでディスカッションした
各の方々と(筆者は左から4番目)。

学会の合間のリラックス!

学会の合間には観光も楽しみました。現地の方から「水道水はお腹を壊すから絶対ダメ!」と念押しされ、私は“安全な水分補給”的名のもと、毎日ビールで水分管理を徹底する生活に。おかげで(?)元気に旅を乗り切れました。タイ料理を満喫し、カオサン通りを歩き、アユタヤ遺跡にも行くことができ、初めてのバンコクを存分に満喫しました。街はごちゃっと賑やかで、バイクと車の多さに驚きましたが、そのエネルギーあふれる雰囲気に「もっと滞在しても良かったかも」と思えるほどでした。

今回の経験を糧として

今回の発表にあたりご指導くださった岐阜大学脳神経内科の國枝先生、そして快く送り出してくださった和田先生はじめ医局の先生方に深く感謝申し上げます。今回の経験を糧に、今後も臨床・研究ともに精進してまいります。



▲ご指導いただいた岐阜大学の國枝先生(左)と。

学会受賞

初期研修医 1年目 李 聖一 いそんいる



第127回 日本循環器学会四国地方会

学生・初期研修医奨励賞 優秀賞 受賞

演題

画像診断の落とし穴:房室ブロック発症時に心臓MRIで捉え
きれなかった心サルコイドーシスの一症例





—— ボン大学病院地下の 医師控え室から 世界遺産を紹介 ——

手技、研究、語学 ~濃密な1日~

皆さんこんにちは、ドイツのボンに留学している循環器内科の菅根です。

今、ボン大学病院地下の医師控え室で手技の合間にこの原稿を書いています。今日も、大動脈弁治療3件、僧帽弁治療3件、三尖弁治療3件で、忙しいです。さらに余った時間で、経カテーテル僧帽弁置換術に使用する、治験デバイスのエコー解析をしなければなりません。家に帰ってからはドイツ語と英語の勉強を寝るまでするので、寒さも相まって大学受験時代の厳しさを思い出しますね。

観光名所 ~ドラゴンが倒された山から世界遺産の宮殿まで~

さて、前回の原稿を見直していたのですが、ボンの観光についてちょっと補足です。ボンの周囲には実は結構観光名所があります。例えば、ライン川を挟んで向こう側にあるKönigswinter。ここにはSchloss Drachenbergという古城跡と博物館があります。近くで綺麗です(写真1)。Drachenbergはドラゴンの城という意味です。中世ドイツ叙事詩ニーベルゲンの歌において、この山に住むドラゴンをジークフリードが倒し、その血を浴びることで無敵になったという伝説があり、その逸話に因んで名付けられたそうです。

また、ドイツ鉄道でボンから20分の距離にあるBrühlにはSchloss Falkenlustという宮殿があります(写真2・3)。これは鷹狩り(Falkenjagd)のためにつくられた狩猟用離宮(Lustschloss)で、宮殿内と庭園を見学できます。世界遺産です。見学ツアーもやっていて、丁寧に説明してくれます。ドイツ語ですが(笑)。

では、また次回(Bis zum nächsten Mal!)。



上から、
(写真1)
Schloss Drachenbergの城内。
(写真2)
Schloss Falkenlust
(写真3)
Schloss Falkenlust
の庭園。



近森会グループ ソフトバレーボール大会2025 開催!

2025年11月29日／サンピアセリーズ

今年も熱戦が繰り広げられました。皆さん、お疲れさまでした!



- 優勝チーム:
画看秘チーム
- 参加者数:
111名(全20チーム)

高校生が集まりました！



医療職のリアルに触れる！

高校生 進路発見 セミナー in 近森 病院

開催しました！



将来の選択肢を広げる一日に

経営企画部 部長 山崎 啓嗣
やまさき ひろつぐ



「高校生進路発見セミナー」には、生徒と保護者をあわせて約70名の方が来場くださいました。医療スタッフは全14職種が、個別ブースを構え、仕事の魅力ややりがい、学びの道筋などを等身大の言葉で伝えました。熱心にメモを取りながら質問される生徒さん多く、スタッフの説明にも自然と熱がこもっていたように思います。

アンケートでは、実物の機器に触れたり現場を歩いたりできたことが印象に残ったという声が多く、将来像を具体化する後押しになったのではないかと感じます。

参加した高校生のほとんどは、これから進路を考える1~2年生でしたが、受験期を迎えた3年生の姿もありました。ある3年生は、薬学部の入試面接に向けて「具体的に語れるようにしたい」と、薬剤師の仕事について“ネタ”を仕入れに来たとのこと。準備の周到さは勿論ですがその賢明さと意欲に驚かされました。

また、専門職のブースとは別に、川崎医療福祉大学（岡山県）および近森病院附属看護学校の先生方にも参加いただき、高校生からの進路相談に応じていただきました。専門職では伝えきれない入試の最新情報を直接聞くことができ、進路への理解を深め、進学への決意を固める一助になったのではないかと思います。

高校生からは「参加して良かった」「また開催してほしい」「友達にも教えたい」といった嬉しい声が数多く寄せられました。5年後、10年後、「あのときのセミナーがきっかけで、医療の専門職になりました。」そんな声が聞ける日を願って続けていきたいと思います。



近森病院 臨床栄養部

管理栄養士 主任

田部 大樹

たべ だいき



食べるためにおいしく 嗅覚障害時、



がん治療中は、下痢や嘔吐といったお腹の症状に悩まされる方が多いですが、同じくらい「嗅覚の異常」に困る方も少なくありません。海外での調査では、8~45%の患者さんが嗅覚の異常を感じていると報告されています。頭頸部がんや喫煙者に多いとされていますが、抗がん剤の種類や投与回数によって発症頻度が多くなることが知られています。

嗅覚異常は味覚異常と同様に食欲に大きく関わるため、治療中の体重維持のためにもおいしく食べる対策が必要です。食事でできる対策の一つは料理の「温度」です。温かい温度で食べる主菜(肉・魚)は50~70℃付近で香りが立ちやすいため、「唇で触れられるくらいの温度(35~50℃)」を目安にすると良いでしょう。また清涼感のある強い香りを持つ柑橘類や香草類と組み合わせて調理すると匂いを不快に感じにくく、食べやすくなると思います。

嘔吐や味覚異常と同じく、嗅覚異常も不快に感じ始めると食事をすること自体が嫌になってしまふため「最近、何か匂いの感じ方がおかしいな」と思い始めたら上記のような対策を取ってみてください。

おいしく食べるためには

1. 適温で食べる

香りが立ちやすい
50~70℃

30℃ 50℃ 70℃ 90℃

唇で触れられる
くらいの温度で
食べるのが
お勧め



2. 柑橘や香草と組み合わせる

柑橘類

大葉、ネギなど



近森会グループ 災害対策!

テーマ
2

近森オルソ リハビリテーション病院の 災害対策に迫る

【第1回】

非常時飲料水の備蓄は どれくらい?

近森オルソリハビリテーション病院
作業療法科 科長
仲川 健 なかがわ けん



▲ 災害時停電状態でも飲料を提供できる災害ベンダー。



▲ 净水装置は組み立て、接続も簡単でコンパクトに収納できる。

● 次回は、「オルソ災害新聞」の発行についてご紹介します!



熱烈応援 昇格人事



毎日の学びを糧に

訪問看護
ステーション
ラポールちかもり
所長(看護師長)
佐野 理香
さの りか

精神科訪問看護で勤務し始めてから、14年目となりました。地域で暮らす疾患をもつ方や様々な支援機関の方との関わりの中で、たくさんのことを日々学ばせていただいている。訪問看護の面白さや大切さをたくさんの方に知つていただけるよう、これからも精進してまいります。

明るく喜んで働く

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部
作業療法科 科長
道倉 由美香
みくら ゆみか



この度、作業療法科科長を拝命し、いつも明るく喜んで働くこと、何事にも前向きに挑戦していく姿勢を大切に精進していきたいと思います。今後厳しくなっていく社会情勢にも柔軟な対応が出来る「変化に強いチーム」作りに努め、質の高いリハビリテーションの提供を通して地域貢献を目指していきます。よろしくお願いします。

ハッスル研修医

「成長」という形でお返しを!

初期研修医 1年目 **山崎 開斗**
やまさき かいと



新年明けましておめでとうございます!研修医1年目の山崎です。近森病院での研修が始まり、学びと反省の連続で気づけば年が明けました。何をするにも周りの方を頼っていた4月が懐かしい一方で、いつの間にか働き始めて1年が経とうとしていることに焦りも感じています。まだまだ未熟で、指導医の先生方やコメディカルの方々へ質問しながら仕事をする毎日ですが、それでも丁寧に教えていただける環境に感謝しております。この1年の恩を「成長」という形でお返しできるよう努力していきます。院内で見かけた際は、温かく見守っていただければ嬉しいです。



看護学校通信

初めての病棟実習を終えて

近森病院附属看護学校 1年生 **佐竹 佑奈**
さて ゆな

今 回の実習を通して、患者さん一人ひとりの状態や思いを知り、相手の立場に立って関わることの大切さを学びました。特に、声かけや動作の一つひとつが患者さんの安心や意欲に影響することを実感しました。また、バイタル測定などの観察を行う中で、技術だけでなく安全・安心を考えながら行動する必要性を感じました。今後は、観察力とコミュニケーション能力をさらに高め、患者さんに寄り添える看護を実践できるよう努めていきたいです。さらに、日々の小さな変化を大切にし、患者さんの回復や努力を共に喜べる看護師を目指したいです。

(写真上)実習当日、緊張した様子の出発前。
(写真下)「頑張ってく!」と実習に向かう学生たち。



お慶び

近森会・森田潔理事 令和7年秋の叙勲 「瑞宝中綬章」受章



岡山大学名誉教授・川崎医科大学特任教授・近森会理事の森田潔医師が、岡山大学の学長を長年務められ、多大な功績を挙げられたことが評価され、令和7年秋の叙勲において「瑞宝中綬章」を受章されました。謹んでお慶び申し上げます。

ひろっぱの制作に携わらせていただき、ちょうど4年が経った。毎月の編集会議では、いつもネタが尽きない。それだけ多くの皆さんが活躍されているということ。“近森”の熱量の高さに日々圧倒されている。でも私が見ているものは、きっと氷山の一角。そんな素敵な皆さんのお手伝いができることに今月も感謝! はりまやポピinz

診療数 2025年11月

—電子カルテ管理課—

●近森会グループ

外来患者数	15,116人
新入院患者数	1,038人
退院患者数	1,064人

●近森病院(急性期)

平均在院日数	11.40日
地域医療支援病院 紹介率	103.83%
地域医療支援病院 逆紹介率	376.18%
救急車搬入件数	545件
うち入院件数	322件
手術件数	513件
うち手術室実施	309件
うち全身麻酔件数	221件

1月下旬、歴史のある富士屋ホテルに1泊し、箱根の大涌谷から仙石原、芦ノ湖、箱根の関所をぶらりと巡ってきました。温泉ばかりでなく、ポーラ美術館、箱根ガラスの森美術館などもすてきです。

ちなみに、大涌谷の地熱と火山ガスの化学反応を利用した名物とはなんでしょうか? (答えは14ページの下)

箱根の山は『天下の険』 箱根 大涌谷から芦ノ湖へ

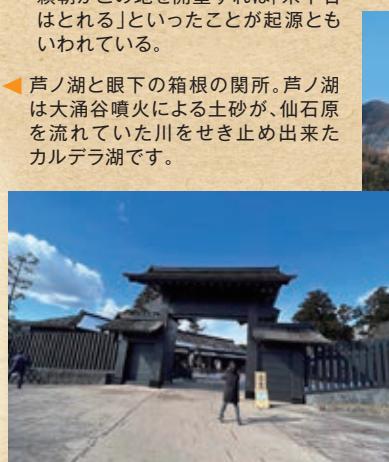


△仙石原からの富士山。仙石原は源頼朝がこの地を開墾すれば「米千石はとれる」といったことが起源ともいわれている。

△芦ノ湖と眼下の箱根の関所。芦ノ湖は大涌谷噴火による土砂が、仙石原を流れていた川をせき止め出来たカルデラ湖です。



△明治11年(1878年)、日本初の本格的リゾートホテルとして開業した富士屋ホテル。



△箱根ロープウェイからみた大涌谷。約3,000年前、箱根最高峰の神山が水蒸気爆発をおこした爆裂火口です。

△完全復元された箱根の関所、京口御門。元和5年(1619年)、徳川幕府により西国に対する江戸の防備と治安を守るために設けられた。

堀内 航介

Kosuke Horiuchi

近森病院 北館5・6階
介護福祉士 主任

聞き手／ひろっぱ編集部



介護業務のほか、近森病院で働くインドネシア特定技能外国人14名の指導とサポートを担当する堀内主任。現場では「怒らない、バタバタしない、愚痴を言わない」と一目置かれ、後輩指導も丁寧であると評判が高い。冷静沈着ゆえに、あまり語られないというプライベートや秘めたる思いを少し覗かせてもらった。

「なんとなく」から始まった、 20年のキャリア

職種を超えて信頼される堀内主任だが、社会人としてのスタートラインは、なりゆきだった。「若い頃は飽きっぽくて何をしても続かなくて…」。高校卒業後は県外を当てもなくフラフラ…。介護福祉士の道を選んだのも、高知で食べてくため。近森会への入職も学校の紹介だったと他人事のように振り返る。「でも、近森会では興味深い出会いもあり、もちろん大変なこともあるけれど、後で必ずプラスに変化する。だから今まで続けていられるのかも」と話してくれた。

インドネシア特定技能生との日々

「1週間に1回、インドネシア特定技能生が在籍する病棟を廻り、本人と病棟の看護



師長にヒアリングを行っています。業務中は日本語オンリーです」。もちろん、戸惑うことはある。「はい」と返事をしても、本当は理解できていないことも少なくない。そんな時は、口で説明するのではなく、実際にやって見せるのが堀内流。業務以外のゴミ出しルールや日本のエチケットなども、根気よく教える日々だ。一方で、日本とは異なる文化や背景を持つ彼女たちへの配慮も欠かさない。「一人一人、理由や目的があってここに来てくれているので、応援したい。一生懸命な姿には心が突き動かされます。ただ、「外国から来た特定技能生」を特別視はしていません」。職場の仲間としてフラットに対応したいという思いがあるようだ。そんな姿勢が、彼女たちの安心感にもつながっているのだろう。

ピッチ上の夢へ、青春、再び!

学生時代は、“サッカーが一番”だった。高校3年の時、膝のケガがきっかけで一度は離脱。大学でサッカーをするという夢も諦めた。しかし、就職後は高知県社会人サッカー1部リーグでプレー。今も、1部リーグのクラブに在籍する一方、同級生と作ったシニアリーグのクラブ「82Select(セレクト)」に所属している。「82Selectは、中学のチームメイトに誘われたんです。当時はライバルだった人が今はチームメイトになり、憧れていた先輩たちとも冗談を言い合ってボールを追うのは本当に楽しいです。このチームで全国大会に行くことが今の目標です」と語る目は、ひときわ輝いた。当時果たせなかつた夢を40代で叶えるために、堀内主任の青春は再燃中だ。



お子さんは、“自由に生きている（堀内主任談）”高3の長女と、バレーボールに熱中している高1の長男。子ども達には「やりたいことは全部やればいい。ダメならやり直せばいい」と伝えている。自分が体験したように、試行錯誤しながら好きなことを見つけてほしいと願う父親としての顔もチラリ。長男とは、一緒に自主トレをする仲。

「100点満点は出せなくても、 自分のできる100%で取り組む」

仕事において、堀内主任が大切にしている言葉がある。総合心療センター時代の先輩から言われた「チャンスは平等には来ない。だからこそ、目の前にチャンスが来たら、自分でつかみに行け」という教えた。その言葉を素地に、「頼まれたら断らない」、「人がやらない仕事をやる」姿勢を自らに課してきた。「きついことをしないと、その先に得られるものはないと思っています」。この言葉は、仕事とスポーツ、両方のフィールドで汗を流してきた堀内主任だからこそ言える実感のこもった言葉である。

「サッカーを続けているのは、自分がまだまだだと思っているから。伸びしろがあるんですよ」と、再認識するかのように述べた。仕事も、サッカーも、堀内航介の成長に限界はない。